

SHIRO

# PAPER



4 573636 264871

Issue  
September  
2025

# 6

2 SHIRO  
PERFUME

香りに込めた想い  
パフューマーに聞きました

6 BUTTERBUR  
HOKKAIDO

ラワンぶきの生産者を訪ねて  
再び北海道足寄町へ

12 MACHINAKA  
BUNKA GOYA

こんなに近くにありました  
みんなの居場所



# SHIRO PERFUME

## 目に見えないからこそ 自分らしい美しさを表現できる もっと自由に、より自分らしく

テーマやコンセプトを設けずに、  
パフューマーが自身のアイデンティティと向き合う。  
それぞれの世界観を自由に表現し、  
心を魅了する香りを生み出しています。  
これまでの12種に加え、  
新たに7つの香りがラインナップに加わりました。  
パフューマーたちの個性に迫ります。

Text: SHIN SASAKI

Ryoko Akatsu,  
Japan

### パフューマーは天職 どこにいても香りが気になる

パフューマーになろうと思ったきっかけを教えてください。  
もともと香りに興味がありました。とにかく香りに反応していましたね。秋になると「どこで金木犀が香っているんだろう」とか、自然の香りだけでなく、人や車、家の匂いなども記憶していました。

#### 幼い頃からですか？

はい。自然志向の家庭で育ちました。母はヨガをしたり、断食したり、変わり者だったと思います。祖父は生物の先生で、山と一緒に歩いて植物を観察したり、押し花をつかったり、香りを嗅いだりしていました。口にも入れていたと思います。

#### お母さんとおじいちゃんの影響が大きそうですね。

そうですね。叔父の存在も影響しています。会社に勤めていて、世界中を行き来していました。お土産の香水をみんなが使っていたから、当時の私にはよく分からなかったけれど、この世界に入ってみると見たことがある香水がたくさんありました。

#### どうやってパフューマーに？

パフューマーを目指していましたが、日本では仕事が見つかりませんでした。フランスのグラースに調香師学校があると知り、2年間学びました。時間がたっぷりあったので、研修先の会社にあった大きな冷蔵庫の中の大量の香水瓶を片端から嗅ぎ続けました。この時期にいろいろなことを吸収した気がします。

#### 香りのつくり方は学校で教えてくれるんですか？

基本的な組み合わせや骨格などは試行錯誤しながら学校で学びます。しかし香水・香りそのものつくり方、という意味では直接という形ではあまり機会がありませんでした。美術館やバレエ、オペラなど文化的な催しに触れる機会をたくさん与えてもらい、感性を培う時間が豊富にありました。



#### 学生の頃は機会が用意されていたのですね。今はどうですか？

学校でそういうきっかけをもらうじゃないですか。あとパリにいたら、それだけで学びがいっぱいありますよね。そして今、日本に帰ってきて、自分1人になっても、やっぱり続きますよね。

#### どうして続けられるんですか？

え？ 楽しいから。好きだからですかね。仕事のためにやっているわけではないと思います、私の場合。

#### 何か社会に伝えたいメッセージがあれば教えてください。

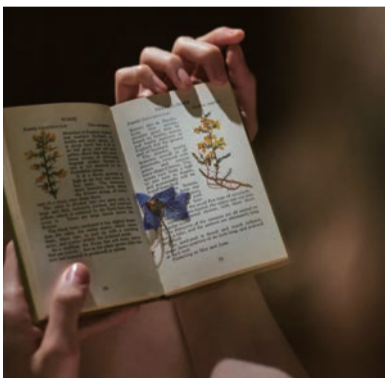
先日、洗剤を開発するプロジェクトでベトナムの家庭を訪問しました。ベトナムではまだ手洗いで洗濯している家庭が少なくありません。そしてほとんどの場合それは女性の仕事です。樽の中でしゃがんで1時間洗濯するのは重労働です。そんなときにふわーっという香りが漂うと、きっと楽しくなるはず。家族をケアする喜びを感じている女性たちに、さらに喜びを添えられるのだとしたら、嬉しいです。

#### ご自身が産地を訪ねることはありますか？

はい、機会があれば行くようにしています。友人の知り合いにオレンジフラワーを栽培している農家さんがいると聞き、行ってきました。会社でも高知までゆずを見に行ってきました。私はSHIROの自然のものを素材にする考え方が好きです。自然に力があるっていうのは、私もすごく信じていますから。

#### 最後に、LIVING MY STORYがどんな香りが教えていただけですか？

境界線のない心地よい香りです。SHIROの香りがユニセックスなのはもちろんわかっていましたが、最初は、アンバーっぽいところなど、やや男性寄りだと感じていました。そのあたりの偏りをなだらかにして仕上げました。



## LIVING MY STORY

エネルギッシュな情熱を表現した  
魅惑的なフローラルの香り

フレッシュな柑橘と甘美なフローラルの中に咲く、白い花のオレンジフラワーがキートとなり、豊かなラベンダーやジャスミンなどの花々も東ねて、マンダリンの軽やかなフレッシュさが包み込みます。トップの明るい印象から始まり、重厚感あるバナラが香り立つ頃には、そのドラマティックな変化に心奪われるはず。

TOP： マンダリン、ブラックカラント  
MIDDLE： オレンジフラワー、ラベンダー、ジャスミン  
LAST： バナラ、ムスク、アンバー



Linda Song  
Singapore

### 唯一無二であれ 大胆であれ

#### あなたはどんなパフューマーですか？

一言で表すとしたら「探求者」ということになるでしょうか。パフューマーは、常に新しいことを学び続ける仕事です。「博学者」でもありたいと考えていますね。分野を問わず優れた学識を持った人であろうと努めています。

#### 香水を通じて伝えたいメッセージを教えてください。

「Jumping off a cliff (崖から飛び降りる)」という表現が、私の生き方をよく表していると思います。崖から飛び降りたいと思っている人は少ないですよね。でも、恐怖に正面から向き合い、安心よりも思い切りを選択することが、私にとっては大切なことです。思い切って飛び込んだ未知の世界は、必ずしも居心地のよい場所ではないかもしれないけれど、それが人間として、またパフューマーとしても成長する道だと思っています。迷ったら、とにかく飛び込んでみてください。



Jasmine Liu  
China

### 花や植物が大好き 自由に空想して香り

#### BLACK FOREST BLESSINGを一言で表すと？

人生に差す光、幸福、驚き。おとぎ話のハッピーエンディングのような。心地よくて安心する香りです。

#### 力強いメッセージですね。

リスクを取らずに何が得られるのか。「あのときこうすべきだった」という後悔の念を抱いたまま生きてくれないんです。私が人生で学んだ大切なことのいくつかは、失敗から得た学びです。

#### CHERISH MY LOVEはどんな香りですか？

フローラルでありながら、必ずしも自然の花そのものの香りではないところが面白いです。とりわけローズオキンドを加えることで、水のような透明感と、メタリックなフレッシュさが加わりました。

#### バラはパフューマーにとってどんな素材なのでしょう。

バラは香りのなかでも中心的な素材です。パフューマーとして実際にバラを扱い始めると、その奥深さを実感します。私の場合、出発点は調香学校での経験でした。フランスのシャトー・ド・バガテルで、本当にたくさんの種類のバラの香りを嗅いだんです。

今までにもバラを使った香水をつくられていますよね。違いは？  
若い画家が最初は装飾をたくさん加えるように、若いパフューマーだった私も、香りに多くの要素を盛り込んでいました。でも時が経ち、調香について理解を深め、花のさまざまな側面を強調する方法を探っていくうちに、私にとってバラの集大成といえるものができたのです。それは「ノイズ」を削ぎ落とすことでした。絵画において抽象表現へと進んでいくのに似ています。CHERISH MY LOVEは、いわば私にとっての抽象的なバラの香りです。その中で特に強調したのがローズオキンド。もちろん他のレイヤーも共存していますが、ローズオキンドがバラの香りに現代的な気配を加えています。

#### 抽象画のような香りということですね。

「不完全の美」、私がバラに取り組むうえでも、その感覚を大切にしました。そしてライチの異なる色合いや質感を重ねつつ、さらに後ろにはアンバーを忍びせて、しなやかでまっすぐな女性らしい強さを表現しています。

#### CHERISH MY LOVEの香りでは伝えたいメッセージは何ですか？

Love should be unique. バラを愛に例えたとしたら、愛は他とは比べることができない、唯一無二の特別なものだということでしょうか。

#### 私も大好きな森で、何度か訪れたことがあります。どうしてBLACK FORESTをご存知なんですか？

実際に行ったことがあるわけではありません。パフューマーのトレーニングをしているときに、何度かドイツのミュンヘンへ行きました。そのときにBLACK FORESTの存在を知ったのです。

ぜひ訪れてみてください。ドイツウヒの木が黒く見えるから。黒い森と呼ばれますが、実際には明るくて美しい森です。はい、行ってみませぬ。私が空想したBLACK FORESTは、遙か遠くにある謎めいた異国の森でした。グリム童話「ヘンゼルとグレーテル」の舞台のような。

#### パフューマーになったきっかけを教えてくださいませんか？

幼い頃から香りが好きで、パフューマーという職業の存在を知る前から、香水に限らず、食べ物や花などあらゆる香りに取り憑かれていました。私の鼻は好奇心旺盛なんです。私の場合嗅覚は、感情と繋がっているようです。視覚は事実をとらえ、嗅覚は感情を動かす。そんな違いがあります。

#### 素材を探して畑や森や海を訪れることはありますか？

私は花や植物が大好きです。花や果実がどのように育ち、実っているかを見たくて、畑を訪れます。そこで働く人々の姿を見ると愛おしくなるのです。農作業の大変さを実感し、素材を大切に、そして適切に使おうと、背筋が伸びる思いがします。

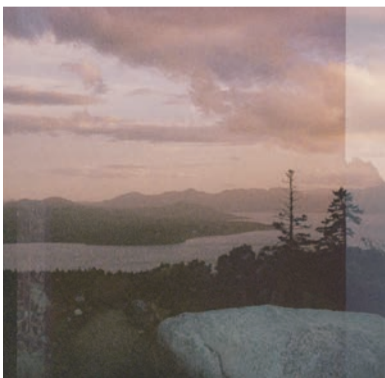


## CHERISH MY LOVE

思わず心ときめくような  
明るいフルーティフローラルの香り

ペアーやベルガモット、ライチのはじけるようなフレッシュさあふれる果実のトップノートにはじまり、ミドルノートではスイスをまとった華やかなローズが強調されたフローラルに色を添えます。そしてムスクやスイートの甘さと、シダーウッドやアンバーが、ラストノートの優雅なコントラストを生み出します。

TOP： ペアー、ベルガモット、ライチ  
MIDDLE： ローズ、ピオニー、ジャスミン  
LAST： シダーウッド、ムスク、スイート、アンバー



## BLACK FOREST BLESSING

力強さとやわらかさが共存するウッドイの香り

スパイシーさの中に清涼感あるシトラスをも感じさせるカルダモンが、鬱蒼とした森の中に差し込む陽光を思わせる。フローラルが鼻をくすぐると同時に、バルサムファーやシダーウッド、サンダルウッドが水々の深い香りを漂わせる。ディープなウッドイにトンカビーンを添えれば、上品な甘さが明るさを与えてくれます。

TOP： ベルガモット、ナツメグ、カルダモン  
MIDDLE： ブラックローズ、ジャスミン、バルサムファー  
LAST： シダーウッド、サンダルウッド、ワード、トンカビーン



## 研究者の探究心に感性や感覚を加える

### パフューマーを目指した経緯を教えてくださいませんか？

パフューマーに憧れていたわけではなく、理系の研究職を探る中で、感性や感覚を活かせる仕事を探して辿り着きました。

母はすごく音楽が好きで、家でいつも聴いていました。祖母が洋服が好きだったことも影響しているかもしれません。

### 感性を活かすならほかにも選択肢がありそうですが、

アーティストやデザイナーが自分に向いているとは思えませんでした。私は理系で研究が好きです。そう考えていくとパフューマーという仕事は自分に合っているのかもしれない。

### 大学ではどんな研究をされていたのですか？

大学では環境分析の研究をしていました。川の水を汲んで医薬品の含有量などを分析していました。目標を決め、そこに向かってラボで地道に作業していくという意味ではパフューマーの仕事と共通します。

### パフューマーというのはどういう仕事ですか？

映像や音楽は信号にして遠くの人に届けられますが、香りはそうはいきません。自分でその場に行く必要がありますよね。すごく便利な世の中になりましたが、香りに関してはアナログなことをしないと、良いものには出会えないと思います。

### なぜ力強さが大切なのでしょう？

中東やフランスでの私の経験が影響していると思います。中東の人々は非常に大胆で力強い。そして中東の文化と深く結びついています。フランスでは自分に香水をつけるだけでなく、自分の周りに香りの輪をつくる、つまり自分だけでなく他人にも香りを纏わせるとい感覚があります。一方、ヨーロッパの他の地域では少し状況が異なりました。しかし今ではこの傾向が世界中で広まっており、すべての国で共通のトレンドになっていると思います。私たちは力強さを求めています。人々は香水を楽しむ、他人にも香りを感じてほしいと思っています。

### あなたにとって調香とは？

私にとって調香することは「永続的な創造性のかたち」であり、異なる文化をひとつに結びつけること。文化の多様性、それが調香の魅力であり、私が調香に惹きつけられる理由です。

### 調香が異文化を結びつけるのですか？

とても重要なことだと思います。香りはメッセージであり、文化であり、私たちが自分自身を表現し対話する方法なのです。香りを通して、自分の個性や出身地、あるいはあなたがどんな人間なのかを伝えることができます。これにはいつも驚かされます。香りは感情を動かし、多様な文化や異なる背景を繋げる役割を果たしているのです。例えば地中海地域では、生まれたときからオーデコロンの爽やかで透明感のある香りに親んでいます。中東では香りは儀式に関わるものであり、日本の香道は、お香を焚いて客人を迎え入れます。香りと文化の結びつきは、各国の文化によって異なります。

### 専門的な教育は受けていないとおっしゃいました。

調香学校で学ぶのが一般的かもしれませんが。私の場合はパフューマーのもとで働くという伝統的な方法で調香について学びました。まず最初にあらゆる香料について学ぶことから始まります。例えば現在私が働くラボには3,000種類以上の香料があります。鼻の教育とでもいいましようか、とにかく香りを嗅ぎ続けます。それが身についたら、次は香料を組み合わせるのです。香料の研究は終わることがありません。今もなお、素材に立ち返り、新たな発見を繰り返しています。

### 産地や生産者を訪ねることはありますか？

もちろんです。私にとって調香は、職業というよりも生き方そのものです。これまで原料が生まれる土地を訪ね歩いてきました。インドネシア・スラウェシ島のパチョリ、南イタリアのシトラス、スペインのシスト、フランス・グラースのバラなど。それは仕事であると同時に、人生の喜びでもあります。

## JOY WITH YOU

喜びあふれる上品で可憐な花畑をイメージした香り

ヒヤシンスやミュゲ、ジャズミンなどの幸福感をもたらすフローラルブーケを中心に、爽やかな柑橘とフレッシュなアプリコットが上品に重なっていきます。華やかなだけじゃないのは、ムスクやアンバーが落ち着いた印象を与えていくから。

TOP：ベルガモット、レモン、アプリコット  
MIDDLE：ヒヤシンス、ジャズミン、ミュゲ、イランイラン  
LAST：ムスク、アンバー、サンダルウッド



## PEONY BLISS

凛としたピオニーをイメージした華やかなフローラルの香り

蕾に秘めた美しさが花開き、透明感あるフローラルが香るピオニー。優美な花びらに青々しいグリーンがアクセントとなり、凛とした涼やかな印象に仕上げます。みずみずしい甘さのあるアップルとペアー、ピオニーの華やかさを後押しするジャズミンなどの花々が、大人っぽくもピオニーで可愛らしいオーラをまとうせます。

TOP：グリーン、アップル、ペアー  
MIDDLE：ピオニー、ジャズミン、マグノリア、ミュゲ  
LAST：アンバー、ムスク、サンダルウッド



## 感情を揺さぶる香りにじみ出すつくり手の人柄

### BE LIKE YOUの香りについて教えてください。

勇気を持てる香りです。この香りをつける勇気を持てる、新しい自分に挑戦できる。つけていくと心地よいの少し新しいから、何か新しいことに挑戦したくなる。ちょっと背中を押してくれるような、そういう香りです。オリジナルのバージョンは、私が以前働いていた中東向けにつくったものです。

### オリジナルからどのように変化しているのですか？

私ひとりの力ではなく、SHIROの皆さんとの共同作業です。私は今シンガポールで働いていて、日本のことをよく知っているのは日本の皆さんですから。

SHIROが日本の枠に閉じ込めている側面もあるかもしれませんが。次回ご紹介させていただく機会があれば、この香りを日本に落とし込んだらこうなるけれど、中東だったらこんな香りですと、私からも意見をお伝えしたいです。

### ぜひまた一緒にやりましょう。

香水をつくるときにどんなことを大切にしていますか？とにかく感情を揺さぶりたいと思っています。音楽家も画家

も、芸術家だったらきっとみんなそう思うんじゃないでしょうか。それが悲しかったり、楽しかったり、何でもいいと思うのです。私は香水をつける人にハッピーになってほしいと思っています。

### 調香師として香りから届けたい想いはありますか？

いろいろなパフューマーにリンゴやバラの香りを依頼すると、パフューマーによって香りはさまざまです。それはその人のパーソナリティ次第なんですよ。

### 調香師の個性が出るということですね。

そうです。使える材料は同じでも、それをどう表現するかはパフューマーの人となりやセンスによるのです。例えば美容室に行って、カットはいいけど最後のセットアップが気に入らないということがありますよね。でも、この人は私のセンスを分かってくれるということも。そういうのってスクールで教えられるものではなくて、その人自身が持っているものだと思うのです。服の着こなし方みたいな、小さな違いですが、ニュアンスは必ず出てきます。

### 自由につくってくださいと言われたら

どんな香りになるでしょう。

実のところそれはいつも取り組んでいるエクササイズで、最初にやることです。依頼されたものに取りかかる前に、まずは自分がつくりたい香りに取り組みます。それが後の自分の代表作になったり。同じ素材を使っても、それをどう表現するかというのはパフューマーの人となりやセンスが表れます。

### 社会的なメッセージはありますか？

自分のブランドを持っていたら社会的なメッセージを込めてつくりますが、現状は違います。私はブランドの方々とお話しして、そのフィロソフィーに耳を傾け、それを自分の作品にどう落とし込むかを考えています。

### あなた自身の個性はそこにどのように反映されますか？

もちろん私の人となりや、心のあり方が反映されます。お互いに意気投合して取り組んでいるので、その時点で私の社会性や人となりは、実際の店舗のカウンターに表れると思います。

パフューマーと企業がより緊密に協働することで、パフューマーのメッセージが伝わると素敵ですね。SHIROとしてはそれに挑戦してみたいと思いました。



## BE LIKE YOU

軽やかにまとうことのできるウッディアンバーの香り

柑橘ならではの爽やかさとフローラルな甘さがほのかに広がり、温かみのあるサンダルウッドとカシヤッドがアクセントを添えてくれます。上品なアーモンドとムスクを加えれば、爽行きのあるウッディアンバーが全体を包み込みます。

TOP：ベルガモット、レモン  
MIDDLE：サンダルウッド、ローズ、ミュゲ  
LAST：アーモンド、ムスク、カシヤッド

果たす役割が大きいそうです。次回改めてお話を伺いたいと思いました。

今回の取材はいくつか難しい点がありました。まず、パフューマーたちの拠点がバルセロナ、上海、シンガポールなど、世界各地に点在していること。現地に足を運ぶSHIRO PAPER編集部としては珍しく、全ての方に直接お会いすることはできませんでした。また、企業秘密やプライバシー保護の観点から、お名前をご紹介できないとか、写真撮影ができないなどの場面がありました。「SUNNY MORNING」に関しては、パフューマーが退職したという理由で取材することが叶いませんでした。そこは取り替えず、そのままにお伝えすることにしました。

一方で、フレグランスを深く掘り下げていく糸口が見えた取材でもありました。スキンケアでは自然素材や生産者との密接な関係を築いているのに比べ、フレグランスは研究室で香料を組み合わせている光景しか思い浮かばなかったのですが、今回、パフューマー一人ひとりにお話を伺うことで、グッと景色が広がりました。パフューマーそれぞれに個性があり、それが香りに反映されている。スキンケアやお店づくりと同じように、土地や人の個性を活かしながら、つくり手との関係性の中でのづくりをする、フレグランスでもそれができると確信することができました。

## 気候に揺れる畑から見える 支え合いのかたち

かつては人の背丈をゆうに超えるほど

大きく育ったラワンぶきですが、

近年は気候変動や連作の影響で

思うように育たなくなりました。

SHIROブランドプロデューサーの今井浩恵と

北海道足寄町の鳥羽農場を訪ねました。

Photographs & Text: SHIN SASAKI

### 鳥羽農場 Toba Farm

足寄で三代続く農家の家に生まれた秀男さんは、1980年に就農。現在はラワンぶきのほか、小豆や玉ねぎ、長いもを栽培しています。町と農協、そして農業改良普及センターがラワンぶき栽培に取り組んだ当初から参加し、妻の昇子さんは町内の小学生を対象にしたラワンぶきの食育活動に取り組むなど、鳥羽農場はラワンぶき栽培の第一人者です。近年は、息子の翔太さん、みのりさんも農作業に加わっています。



ラワンぶき  
フェイスウォッシュ  
150mL 3,960円(税込)



ラワンぶき化粧水  
120mL 2,347円(税込)



ラワンぶき  
クレンジングクリーム  
95g 5,280円(税込)



旬シリーズ  
ラワンぶきフェイス  
ウォッシュ 2025  
200mL 5,280円(税込)



ラワンぶきフェイスマスク  
3枚入り(48mL)  
2,090円(税込)  
14枚入り(195mL)  
5,500円(税込)



シアバター & ラワンぶき  
モイストリッチクリーム  
45g  
7,469円(税込)

## 気候変動か、連作障害か 思うように育たないラワンぶき

ラワンぶきは、日本一大きなぶき。成長すると高さは2~3mにも達します。SHIROが化粧水やフェイスウォッシュに使用しているのは、鳥羽農場で育ったものです。しかし近年は背丈が伸びず、収穫量も減少しています。6月末、旬を迎えた畑を訪ねましたが、本格的な収穫はまだ始まっていませんでした。

「今年はまだ、あの香りを嗅いでいないね

収穫時期が近づくと、ぶきの香りが風によって家まで届くんだ」

そう語るのは鳥羽秀男さんと昇子さん夫妻。畑を歩きながら、息子の翔太さん、みのりさん夫婦と一緒に話を聞かせてくれました。鳥羽農場がラワンぶきを育て始めたのはおよそ35年前。度重なる川の氾濫で自生地が減ってしまい、町、農協、農業改良普及センターの3者が協力して苗を培養し、農家が栽培し始めました。

「自分たちが食べる分があればいいと思ってね

ほら、俺は食べたい野菜しか栽培しないから」

と秀男さんは笑います。気づけば規模が広がり、SHIROの製品を支える大切な素材に。しかしここ数年は、気候変動の影響か、あるいは連作障害なのか、大きく育たない年が続いています。カギとなるのは「4番ぶき」。ラワンぶきは1シーズンに4回芽を出し、2番ぶきと3番ぶきが食用として出荷されます。SHIROが使っているのもこの部分。そして収穫後に芽を出す4番ぶきは刈り取らず畑の栄養になるのですが、夏の高湿と乾燥で十分に育たず、根に栄養を蓄えられません。結果として翌年も成長できず、悪循環が続いているのです。

さらに、畑の過密状態も課題のひとつ。株が密集しすぎて水や栄養が行き渡らないのです。間引きは効果的ですが、夏はほかの作物の世話に追われ、炎天下での作業も重なります。ラワンぶきの単価を考えると、手をかけるのは難しいのが現実です。



ラワンぶきの旬の時期にしか食べられない「ラワンぶき天ぷらそば」



ラワンぶきの品質を確認する鳥羽秀男さんと足寄町役場の職員

## 新しい挑戦と支え合い 自然と地域が繋ぐ未来

そんな畑の奥に、少し驚くような光景が広がっていました。数年前の川の氾濫で土が流された一角で、ラワンぶきがひととき元気に育っていたのです。過密や連作障害がリセットされたからでしょうか。川の氾濫で自生地が減ってしまったことがラワンぶきの栽培を始めるきっかけでした。でも今は氾濫が逆に力を与えてくれるように見えます。自然が持つ治癒力なのか、それとも一時的なことなのか。答えはすぐには分かりません。

大きく育たなくなった畑も同じように土壌をリセットする必要があるでしょう。しかしぶきは地下茎が増えるため、畑から完全に取り除くのは簡単ではありません。育てようと思ってもかつてのように大きくは育たないけれど、取り除こうと思うと根が強くて太刀打ちできないのです。鳥羽農場では既存の畑で試行錯誤を続ける一方、2年前から新しい畑に苗を植え始めました。ラワンぶきは植えてから3年でようやく収穫が可能に。収穫が始まるのは来年の予定です。

SHIROでは今年、鳥羽農場では必要量が確保できず、足寄町役場の圃場で育てていたラワンぶきを分けていただきました。SHIROは農協や漁協と取り引きするのではなく、生産地に足を運び、生産者と直接話して素材を仕入れています。農協や町役場よりも、生産者との直接取り引きにこだわる私たちに昇子さんは言います。

「農協や他の農家との関係はとても大切ですが

困ったときは助け合いですから

今の農協の担当者の方がね、すごいいい人なんですよ

彼がいたから、ラワンぶきの加工品をつくる

山菜工場が赤字から脱却できたのです」

足寄町役場の畑に着くと、いつの間にか秀男さんの周りに人が集まっています。出荷できるラワンぶきの見極め方について話しているようです。秀男さんと昇子さんに連れられて町役場で町長にもお会いした今回の旅で分かったこと。それは農協が、農家だけでなく、町と連携して地域全体を支える存在でもあるということ。山菜工場に安定してラワンぶきを供給し、雇用を守り、畑作が不調年には畜産が支える。そんな相互扶助の仕組みが、この町を支えているようです。町役場に向かう前に、近くの両国食堂でラワンぶきの天ぷらそばをいただきました。短い旬の6月だけに味わえる特別なそば。「やっぱりラワンぶきの天ぷらはうまい」と秀男さんは笑います。それこそが、彼がラワンぶきを育てる原動力なのです。



## フィールドワークの学び 「なぜ？」が導く未来

問いかけは、人を動かし、組織を変える力を持っています。SHIROが大切にしてきた「なぜ？」と問う姿勢は、生産者との関係づくりから始まり、社員一人ひとりの行動指針へと広がっています。今年の全社総会の舞台となった千葉・鴨川では、その姿勢を体感するためのフィールドワークが行われました。

Photographs & Text: SHIN SASAKI



## 魔法のことは「なぜ？」 問いかけが力に変わる

7月1日、株式会社シロの第36期全社総会が千葉県鴨川市で開催され、500名を超えるスタッフが参加しました。総会が終了した後はフィールドワークを実施。鴨川を拠点に活動する「苗目」の井上隆太郎さんを中心に、地域の方々にご協力いただき、充実した時間を過ごしました。エディブルフラワーを食べたり、ひたすら草をむいたり、ポニーの小屋を掃除したり、大豆を植えたり、アメリカザリガニを捕まえたり、雑草が生える前の田んぼを撫でたり、ジビエや捕鯨について学んだり。

フィールドワークは、SHIROにとってブランドの原点といえる活動です。ブランドプロデューサーの今井浩恵は国内外の生産者を訪ねて、交流し、製品をつくり続けてきました。フィールドワークを通じて確立した生産者との信頼関係を社員にも肌で感じて欲しいと考えています。今井がフィールドワークをするときの魔法の言葉は「なぜ？」です。「なぜ?」「なぜ?」と問い続けて、納得するまで質問に答えてくれる人こそ信頼できるパートナー。SHIROはそういう方たちに素材を分けていただく契約を続けてきました。



## 会社を動かす 社員主導のフィールドワーク

全国各地から社員が集まり実施した鴨川でのフィールドワークは半日で終了。社員たちはそれぞれの持ち場へ帰っていきました。さて「なぜの魔法」を覚えたシロの社員たちはどこへ向かうのでしょうか？ ゴールドウインの「フィールドリサーチラボ」が参考になるかもしれません。ゴールドウインでは社員が中心となり、テーマを決めてフィールドワークを行っています。

例えば「災害とアウトドア」というテーマで、同じくアウトドアブランドであるモンベルの災害支援活動についてリサーチしています。2024年1月に能登半島地震が発生しました。モンベルは地震発生後3日後には支援物資を積んで被災地に入り、食料やダウンジャケットなどを配布。「なぜそんなに迅速に動けるのか?」「なぜ社内承認が取れるのか?」フィールドリサーチラボのメンバーは、モンベルに向かいその仕組みを学び、自社でも迅速に災害支援ができる体制を整えたそうです。社員一人ひとりが主体的に行動することで、会社を動かしたのです。

「SHIROが成長するには、社員の知恵と想いが欠かせません  
今後はもっと権限を委ね、社員自身が決定できる場を増やしていきます」

これはフィールドワークに出発する前、鴨川の体育館で今井が社員に伝えたメッセージ。シロが少しずつ変化し始めているのかもしれない。



### FIELDWORKS



#### 苗目 naeme

苗目の井上隆太郎さんと裕美さんは、オーガニック食材を日常にし、エディブルフラワーやハーブを飾りではなく食材として定着させる活動をしています。また、里山を再生することで、豊かな自然を守り、動植物の多様性を復活させることに取り組んでいます。苗目が管理する数か所の現場に分かれ、草刈り、ポニーの世話、種まき、収穫、アメリカザリガニの駆除などを行いました。



#### 五膳食 GOZENDON

地球にも身体にもやさしい農法で、農薬や肥料を一切使わず、月の巡りに合わせて米とレンコンを育てている釋信智さんと実奈さん。7月は気温が上がって田んぼの雑草が成長する季節。雑草を抜くのではなく、田んぼの表面を撫でる除草作業を行いました。田んぼに素足をいれ、手を水と土に通わせると、大地の力強いパワーを直接感じる豊かな時間を過ごすことができました。



#### ミネオカ・ジビエ Mineoka Gibier

Uzuméの広大な敷地には、オーナーのヘイミッシュ・マフィーさんと、パートナーの富沢恵里さんが暮らす住宅のほか、食べられる森、一棟貸しの宿泊施設などが点在。Mineoka Gibier (ミネオカ・ジビエ)として、地元猟師から持ち込まれた獣肉をソーセージなどに加工・販売しています。持続可能な農業を軸とした暮らしについて学びました。



#### くじらのもり Kujiranomori Nature School

くじらのもりは、千葉県南房総市の海、山、川、田畑をフィールドとした自然体験ツアーやキャンプなどの宿泊事業を企画・実施しています。専門ガイドとともに磯の生き物を観察し、生態系の繋がりがや海洋環境の大切さを学びました。また、県内唯一の捕鯨会社「外房捕鯨株式会社」の解体場を見学し、捕鯨の歴史・文化・現状について理解を深めました。

## こんなに近くにありました 人と人が自然に集まり 寄り添い合う居場所

SHIROが北海道砂川市で進めている

砂川パークホテルをリニューアルするプロジェクト。

参考となる施設を求めて国内外を訪ね歩いてきました。

しかし、答えは意外にもすぐ近くにありました。

砂川から車で1時間、

旭川市の「まちなかぶんか小屋」を訪ねました。

Photographs & Text: SHIN SASAKI



## コーヒー代を払わなくても居られる場所 ふらっと入れる、街のサードプレイス

「まちなかぶんか小屋」は、旭川市の中心部に位置する小規模なイベントスペースで、40人ほど入ると満席になるほどの広さです。演劇や朗読会、ライブなど、日々さまざまなイベントが開催され、子どもから高齢者まで幅広い世代が集まります。文化施設は全国に存在しますが、この小屋が特別なのは、文化を発信する拠点でありながら、誰でも自由に過ごせる「みんなの居場所」であること。

イベントやワークショップは一部を除き有料ですが、イベントが行われていない時間帯も空間は開放されています。入場料は不要。ふらりと立ち寄り、誰かと会話を交わすことができます。カウンターでドリンクを注文できるものの、必須ではありません。軒先に並ぶ古本は「自由値段」で購入でき、いくらで購入するかは購入者次第。こうした仕組みにより、コーヒー代の300円を支払えない人でも、自然に居場所を見つけられるのです。

自宅でも学校でも職場でもない第三の空間——それがまちなかぶんか小屋です。人々が集い、会話し、文化に触れることで生まれる関係性は、売上や動員数では測れない価値です。私たちは砂川パークホテルのリニューアルプロジェクトを進める中で、この居心地の良さや、誰もが受け入れられる場所の重要性を強く感じています。小さなスペースであっても、工夫次第で地域にとって欠かせない存在になれる——まちなかぶんか小屋は、そのことを実感させてくれる施設です。



## 行政が始めて、市民が受け継いだ 空き店舗から生まれた文化拠点

まちなかぶんか小屋が誕生したのは2013年8月。旭川市中心部の空き店舗となっていた元薬局を改装し、市の中心市街地活性化事業の一環として開設されました。初代の事務局長を務めたのは、有村幸盛さん。彼は独自に演劇を上演する会員制団体「旭川市民劇場」の事務局長も務め、長年にわたり旭川の文化活動を支えてきました。まちなかぶんか小屋では、開設当初から演劇や落語、朗読会、映画上映会、ライブなど、幅広いジャンルのイベントが次々と開催されました。

しかし、市の補助事業終了に伴い、小屋はわずか8か月で閉鎖します。市民からの存続を求める声を受け、有村さんを中心に「まちなかぶんか推進協議会」が設立されました。市から家賃や光熱費の補助を受けつつ、民間主導での運営が再開されます。初年度の年間予算は1,050万円でしたが、民間に移行してからは600万円、現在は385万円まで減少。まちなかぶんか小屋の現状は、数値化できる指標では大賑わいとは言えない状況ですが、施設の価値は集客や売上だけでは測れません。誰もが安心して過ごせる居場所としての役割が評価されても良いはずだ。

立地もまちなかぶんか小屋の特長のひとつです。「平和通買物公園」と七条緑道が交わる交差点付近には、子どもの本屋「こども富貴堂」や絵本作家・あべ弘士さんの「ギャラリーブルブル」もあります。地域に根付いた文化の拠点とともに、まちなかぶんか小屋は街のコミュニティを支える存在として息づいています。単なる文化発信の場にとどまらず、街の人々が集い、互いに関わり合う“場”として成長してきたのです。



## 「たけちゃん」が繋ぐ人と人 支援ではなく友人として迎えるあたたかさ

「たけちゃん」の愛称で親しまれる竹田郁さんは、東京生まれ・東京育ち。美術系大学を卒業後、アートに熱中しきれない自分に気づき、もともと関心のあった福祉の道へ進みました。ソーシャルワーカーとして、生活保護世帯の就労支援や子どもたちへの学習支援に従事します。転勤で旭川に移住しますが、地域になじめず、友人をつくることに苦労しました。

竹田さんはソーシャルワーカーとして働きながら、「支援する側」と「支援される側」という構図が関係性を制限してしまうと感じていました。友人であれば「少し変わった人」で済ませられることも、仕事の立場になると支援計画を立てて接しなければならず、友人関係を築くのは難しい。竹田さんは福祉の仕事辞めることにしました。その頃に読んだ内田樹さんの本の中で印象に残っている言葉があるそうです。「仕事とは自分で選ぶものではなく、仕事の方から呼ばれるものだ」という考え方で。

竹田さんは『沖繩うりずんの雨』というドキュメンタリー映画の上映会を企画し、まちなかぶんか小屋に関わります。そして、仕事を辞めたあと最初に「働かないか」と声をかけてくれたのがまちなかぶんか小屋だったのです。



竹田 郁 Kaoru Takeda

まちなかぶんか小屋 事務局長。2008年にワーカーズコープ・センター事業団に入団。異動で旭川へ、主に失業対策事業、自立支援事業に携わる。2015年より、演劇や落語、マーケットなど、文化・芸術をきっかけに人が集う「まちなかぶんか小屋」に参加。企画・運営を行う。



## お金を介さない関わりが生むもの 日常の中にある小さなドラマと助け合い

竹田さんが運営に加わることで、まちなかぶんか小屋は単なる文化発信の場にとどまらず、誰もが集える居場所としての役割を強めました。ソーシャルワーカーとしての経験を活かし、居場所を必要とする人たちが、ひとりまたひとりと自然に集まり始めます。竹田さんは「無料で居られて、少し人と話せる場所って、街の中にはほとんどないのです。フードコートや図書館、そしてまちなかぶんか小屋くらい」と語ります。

私たちが竹田さんのお話を伺っているほんの1時間の間にも、まちなかぶんか小屋には次々と人がやってきて、気がつく私たちのテーブルの周りには椅子に座りきれないほどの人が集まり、話が弾みました。常連客のひとりまちなかぶんか小屋について尋ねると、こんな答えが返ってきました。

「旭川の街を歩いていてギョッとする人がいたとしますよね  
気がつくとその人たちが、まちなかぶんか小屋に座っているんです（笑）  
たいていたけちゃん呼び込んでしまうんです」

まちなかぶんか小屋では、イベントの有無に関わらず毎日いろいろなドラマが繰り広げられていてまるで演劇のよう。壊れた草履の修理を手伝ったり、おばあちゃんの携帯電話と一緒に探したりと、日常のちょっとした困りごとにも対応しています。

「イベントとイベントじゃない日の違いって  
なんだろう？って最近思います  
主催者がいない日常の出来事だってイベントだと思うんですね」

まちなかぶんか小屋では、運営側と利用者の境界は曖昧です。ふらっと立ち寄った人が掃除を手伝ったり、チケットのもぎりを担当したりすることもあります。こうして、日常の中で人々が自然に関わり合い、助け合う仕組みが形成されているのです。

訪れる人々の年齢や立場、状況はさまざま。まちなかぶんか小屋は互いを受け入れる空間です。居場所を求める人も、文化を楽しみたい人も、誰もが対等に過ごせる。この自由さと温かさこそ、まちなかぶんか小屋の魅力であり、竹田さんを中心とした運営体制が生み出す独自の価値なのです。

## イタリアの“地区の家”と重なる風景 文化と福祉がゆるやかに融合する場所

竹田さんのお話を伺いながら、編集部頭に浮かんだのは、イタリア各地でこの10年ほど増えてきた「地区の家」という場所です。「地区の家」は民間組織によって設立・運営される公民館のような施設で、行政主導ではなく地域住民のニーズに応じて活動が展開されています。編集部はこの夏、イタリアのいくつかの地区の家を訪れましたが、そこで見た景色や空気感は、まちなかぶんか小屋と多くの点で共通していました。

例えば、アレクサンドリアという町の地区の家。鋳物工場として建てられ、その後倉庫として使われていた建物を改修した施設には、多目的スペース、ワークショップや講座の教室、カフェ、ジム、古道具の倉庫など、さまざまな機能が備わっています。ヨガや語学講座、生活保護世帯の就労支援も行われ、地域の人々が自由に出入りできる場として運営されています。文化発信と福祉的な活動を融合させている点で、まちなかぶんか小屋によく似ています。複数の機能を兼ね備えることで、人々の交流が促進され、地域コミュニティが開かれたものになるのです。図書館、劇場、カフェ、学習支援——異なる役割を同時に持つことで、誰もが必要なときに必要な居場所を見つけられるようになっています。

行政の縦割りの仕組みでは、文化施設は文化活動に集中することが求められがちです。しかし、まちなかぶんか小屋は地域の声に耳を傾け、ごく自然に文化と福祉を両立しています。その柔軟さと温かさは、イタリアの地区の家と同様に、人と人の繋がりを育む、地域コミュニティに欠かせない存在です。SHIROはこの活動に共感し、砂川パークホテルのリニューアルプロジェクトの参考にさせていただくとともに、私たちがまちなかぶんか小屋のためにできることは何かを考えています。



## SHIRO NEWS



9月28日(日)に札幌ステラプレイス店が  
リニューアルオープン  
ブランドの原点となる1号店が新たな歴史を刻みます。

“捨てないお店づくり”を「SHIRO 札幌ステラプレイス店」でも実現。コンセプトは「継承するものと北海道らしさ」。リニューアル前のお店から継承したのは、床材とネイビーのエキスパンドメタル。これらの素材にクリエイティブを注ぐことで捨てないお店づくりが実現します。床の上から雪の跡のようなグラフィックを描き、雪降る冬の季節を表現。エキスパンドメタルは陰影投影のために利用したり、ペンダントライトにかたちを変えたり。奥にある大きなガラス什器の下に積み上げられた丸太は建築構造材の端材を活用。他の什器の側面には家具工房からいただいた木の屑を澱粉糊で固め、北海道の木の恵みをふんだんに使うことに挑戦しました。

### “食べておいしい”「ラワンぶき」から 肌が喜ぶスキンケア

今年は鳥羽農場の一部の畑がお休みのため、「ラワンぶき」製品をつくるための収量が不足することが分かり、足寄町役場からも分けていただくことになりました。その「ラワンぶき」は足寄町役場の圃場で青々と元気に育っていたもの。実際に食べてみたところ、アクがなく、みずみずしい風味の味わい深さに感動。「ラワンぶき」の茎を切るとあふれ出る豊富な液汁が潤いを与える、肌にもおいしいスキンケアをお楽しみください。



### 視点を変えた先に新たな出会い 「日高昆布」のスキンケアが誕生

「日高昆布」がSHIROの新たな素材に加わりました。昨今の気候変動により「がごめ昆布」の収量が減っていることから、逆に増えていくものに目を向けた先に出会えた素材。日高昆布のみずみずしさとビタミン豊富な特長を活かし、新たなスキンケア製品が生まれました。たっぷりの潤いで肌を満たす『日高昆布フェイスマスク』と、たった1本ですべてのスキンケアが叶う『日高昆布アロエタマヌオールインセラム』を、ぜひお試しください。



## SHOP LIST

## 北海道

SHIRO 砂川本店	北海道砂川市豊沼町54-1 みんなの工場内
SHIRO 札幌ステラプレイス店*	北海道札幌市中央区北5条西2-5 JRタワー 札幌ステラプレイス センター B1F

## 関東

SHIRO 表参道本店	東京都渋谷区神宮前5-2-7 2F
SHIRO BEAUTY 表参道本店	東京都渋谷区神宮前5-2-7 B1F
SHIRO ルミネエスト新宿店	東京都新宿区新宿3-38-1 ルミネエスト新宿 B1F
SHIRO 伊勢丹新宿店	東京都新宿区新宿3-38-1 伊勢丹新宿店本館1階=イセタン ビューティー コスメティックス
SHIRO 丸ビル店	東京都千代田区丸の内2-4-1 丸ビル B1F
SHIRO 銀座三越店	東京都中央区銀座4-6-16 銀座三越 地下1階 ギンザコスモワールド
SHIRO 渋谷 PARCO店	東京都渋谷区宇田川町15-1 渋谷パルコ1F
SHIRO +Q (プラスク) ビューティー 渋谷スクランブルスクエア店	東京都渋谷区渋谷2-24-12 渋谷スクランブルスクエア ショップ&レストラン6階 SHIRO +Q (プラスク) ビューティー店
SHIRO 渋谷セカリエ ShinQs 店	東京都渋谷区渋谷2-21-1 渋谷セカリエ ShinQs 1F
SHIRO ルミネ池袋店	東京都豊島区西池袋1-11-1 ルミネ池袋 B1F
SHIRO 玉川高島屋 S・C 店	東京都世田谷区玉川3-17-1 玉川高島屋 S・C 南館1F
SHIRO ルミネ北千住店	東京都足立区千住旭町42-2 ルミネ北千住 3F
SHIRO ルミネ横浜店	神奈川県横浜市西区高島2-16-1 ルミネ横浜 1F
SHIRO ルミネ大宮店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630番地 ルミネ大宮店 ルミネ2 3F
SHIRO/TIAT DUTY FREE BEAUTY	東京都大田区羽田空港3-4-2 第2ターミナル3階 国際線出国エリア内

## 中部

SHIRO タカシマヤ ゲートタワーモール店	愛知県名古屋市中村区名駅1-1-3 タカシマヤ ゲートタワーモール 6F
SHIRO ジェイアール名古屋タカシマヤ店	愛知県名古屋市中村区名駅1-1-4 ジェイアール名古屋タカシマヤ 3F 化粧品

## 近畿

SHIRO 大丸京都店	京都府京都市下京区四条通高倉西入立売西町79 大丸京都店1F
SHIRO ルクア イーレ店	大阪府大阪市北区梅田3-1-3 ルクア イーレ 2F
SHIRO 阪急うめだ店	大阪府大阪市北区角田町8-7 阪急うめだ本店 3F HANKYU BEAUTY
SHIRO 大丸心斎橋店	大阪府大阪市中央区心斎橋筋1-7-1 大丸心斎橋店本館1F
SHIRO 大阪タカシマヤ店	大阪府大阪市中央区難波5-1-5 高島屋 大阪店 1階化粧品売場
SHIRO 大丸神戸店	兵庫県神戸市中央区明石町40番地 大丸神戸店 本館 1F 化粧品

## 中国・四国

SHIRO ミナモア広島店	広島県広島市南区松原町2番37号 ミナモア広島 2F東
---------------	-----------------------------

## 九州

SHIRO 岩田屋店	福岡県福岡市中央区天神2-5-35 岩田屋本店 本館1階=化粧品
SHIRO 博多阪急店	福岡県福岡市博多区博多駅中央街1-1 博多阪急 1F 化粧品

## Taiwan

SHIRO 新光三越台北信義新天地A11店	台湾台北市信義區松壽路11號1樓
-----------------------	------------------

## South Korea

SHIRO Seongsu	57, Yeonmujang-gil, Seongdong-gu, Seoul, Korea
---------------	--

## UK

SHIRO Monmouth Street	Ground Floor, 63 Monmouth Street, London, WC2H 9DG, UK
-----------------------	--

※2025年9月28日(日)リニューアルオープン

SHIRO  
PAPER

Issue 6

発行：株式会社シロ  
お問い合わせ  
TEL: 0120-275-606  
MAIL: info@shiro-shiro.jp

編集長：今井浩志  
Editor in Chief: Hiroe Imai

クリエイティブ・ディレクター &  
表紙写真：佐々木信 (3KG)  
Creative Director &  
Cover Photograph: Shin Sasaki

グラフィックデザイナー：石田愛実 (3KG)  
Graphic Designer: Manami Ishida

発行人：福永敬弘  
Publisher: Takahiro Fukunaga

編集：田崎菜月  
Editor: Natsuki Tasaki

編集：河合裕子  
Editor: Yuko Kawai

Thanks to: 赤津亮子 / Linda Song /  
Jasmine Liu / Jordi Fernández /  
Nanako Ogi / May Chioh / 大場卓 /  
Laurine Sautour / 湯川智之 / 和久井康司 /  
佐藤健太郎 / 鳥羽秀男 / 鳥羽昇子 / 鳥羽翔太 /  
青木みのり / 井上隆太郎 / 井上裕美 / 釋信智 /  
稲田実奈 / Hamish Murphy / 富沢恵里 /  
くじらのもりの皆さん / 外房捕鯨株式会社の皆さん /  
杉山和哉 / 竹田都 / 井上岳一 / 多木陽介 /  
ファビオ・スカルトウリッティ / 北崎千鶴  
(敬称略・順不同)

Copyright © SHIRO Co., Ltd.  
All Rights Reserved.  
本誌掲載の写真、イラストレーション、  
ロゴの無断転載および複写を禁じます

shiro-shiro.jp  
© shiro\_japan  
© shiro\_sunagawa  
© maisonshiro\_

